

- 人口：259,830人 (+79)
- 世帯：101,341世帯(+83)

●発行 平塚市 ●編集 企画部広報課
〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号
電話 23-1111・35-1111 FAX 23-9467
http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/
●発行部数 104,000部 (毎月1日・15日発行)

11月12日(日) 第30回ひらつか民俗芸能まつり

時間 午後0時30分開演(入場自由)
会場 中央公民館1階大ホール

出演団体・演目(出演順)

【人形浄瑠璃芝居の部】

県立高浜高校文楽部・「寿式二人三番叟」

湘南座・「増補大江山〜辰り橋の段〜」

相模人形芝居前鳥座・「傾城阿波の鳴門〜順礼歌の段〜」

【囃子太鼓と甚句の部】

入野太鼓保存会・「入野ばやし」

真土神社甚句保存会・「真土甚句」

城所太鼓保存会・「城所ばやし」

須賀甚句の会・「須賀甚句」

田村ばやし保存会・「田村ばやし」



郷土芸能、晴れ舞台。

①市の重要無形文化財に指定され今年で30周年となる「田村ばやし」。芸の継承に努めてきた田村ばやし保存会の演奏で、今年もその勇壮な調べをお楽しみいただけます。

②第1回の民俗芸能まつりから参加を続けている相模人形芝居前鳥座。県の無形民俗文化財に指定されている一座の迫真の演技は、毎回、会場につめかけた多くのみなさんを魅了しています。昨年は「絵本太功記〜尼ヶ崎の段〜」(写真)を熱演しました。

人形浄瑠璃芝居・囃子太鼓・甚句など、平塚にはいろいろな芸能が伝わっています。十一月十二日(日)、そうした郷土芸能を継承する団体が伝統の技を披露する「ひらつか民俗芸能まつり」を開催します。第三十回の節目となる今回は、前回の倍となる八団体が出演し、会場を盛り上げます。郷土の財産である芸能の晴れ舞台をどうぞ、お楽しみください。

◆問い合わせ先 社会教育課(☎35-8124)

「ひらつか民俗芸能まつり」は昭和五十年に始まりました。今回は、例年参加している人形浄瑠璃芝居や囃子太鼓の団体のほかに、甚句を披露する二団体が出演します。

二つの人形浄瑠璃芝居

語りや三味線の音に合わせて人形を操る人形浄瑠璃芝居は、県立高浜高校文楽部・湘南座・前鳥座が披露します。

平塚に伝わる人形浄瑠璃芝居は大きく二つに分類されます。一つは三人で人形を操る相模人形芝居、もう一つは一人で人形を操る乙女文楽です。

相模人形芝居は前鳥座が、乙女文楽は高浜高校文楽部と湘南座が継承しています。三人遣いと一人遣いの人形浄瑠璃が同じ市内で継承されているのは、全国でも珍しい例です。二つの人形浄瑠璃はともに、その継承が危ぶまれる時期もありました。しかし、継承する一座の精力的な活動により、郷土芸能として現在も親しまれています。

各地区に伝わる囃子太鼓

日本の祭りの象徴で全国に広まる囃子太鼓は、市内でも各地区に伝わっています。今回は各地区から三つの保存会が出演し、入野ばやし、城所ばやし、田村ばやしを披露します。

歴史風土を語る甚句

江戸後期に起源がある郷土民謡・甚句は平塚でも歌い継がれてきました。今回披露される須賀甚句は、近隣諸国の物資の集散地として栄えた須賀湊の漁師が、沖上り(大漁祝い)の宴会で歌った甚句です。また真土甚句は、真土神社の祭りで神輿渡御などの際に歌う甚句です。二つの甚句で歌われる詞は、須賀や真土の歴史風土を今に伝える貴重な民俗資料でもあります。



イベントを前に須賀公民館で稽古に励む

〜須賀甚句の会のみなさん〜

須賀甚句は伊豆下田地方で歌われていた甚句の流れだとされています。しかし、口伝えで継承されてきたため、起源などははっきりしない部分もあります。そこでわたしたちは、須賀甚句のわかっていない部分を掘り起こすことを目的にしながら活動しています。

わたしたちは七・七・七・五調の須賀甚句を竹で拍子を取りながら歌います。昔は須賀の漁師たちが一斗樽などをたたきながら宴会でにぎやかに歌っていたと考えられます。今回はそんな躍動感ある甚句を大漁旗を振りながら披露します。ぜひ、お楽しみください。



